

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870102153
法人名	有限会社 イヨメディカル
事業所名	グループホームみゆき 1F
所在地	松山市御幸2丁目8-18
自己評価作成日	平成24年9月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 24年 10月 19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の方が安心して生活出来るように、家族、職員、必要な医療機関と密に連絡を取り合いながらケアに励んでいる。又、利用者の方が充実した一日を送って頂ける様に、日頃から密に関わりを持ち利用者の要望、希望を具現化していけるように努めている。
戸外に出て行くことを重点に置き、天気の良い日以外は外出、特に散歩を日課とし、近隣に住む住民の皆様と挨拶、会話をしていくことで地域から孤立する事なく生活出来るように努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

古い民家が立ち並ぶ住宅地に開設され10年目を迎える事業所である。日課にしている近所への散歩の際に、地域住民と会話をするなど日常的に交流を持っており、積極的に関わっていくことで地域に馴染んだ事業所となっている。運営推進会議の参加メンバーは地域住民も多く、活発な意見交換が行われており、地域との協力体制が築かれている。利用者が楽しくやすらぎを感じながら暮らせるよう、代表者と管理者、職員が力を合わせて取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名	有限会社 イヨメディカル
(ユニット名)	グループホーム みゆき1F
記入者(管理者)	
氏名	青木 正知子
評価完了日	平成24年 9月 15日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 事業所の理念を「家訓」として掲げ、常に全職員で再確認し、実践に努めている。又、毎年ケアについての目標設定を定め、達成できるように努めている。	
			(外部評価) 事業所の理念は誰にでも分かるよう表現し、思いやりを持って優しい笑顔を大切に利用者一人ひとりと関わりを持つことを心がけている。新しい職員には入社時に説明しており、全職員で実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 運営推進会議を通して地域の防災訓練等に参加、秋祭り、ボランティアの受け入れ等、地域のとの関わりに力を入れ、事業所、又は利用者の方々が地域から孤立する事のないように努めている。	
			(外部評価) 事業所の周りは民家が多く、散歩の際に地域住民とふれあうなど日常的に交流がある。近くのお寺の行事にでかけたり、事業所を神輿の休憩場所として提供するなど地域の活動にも積極的に関わりを持っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 外部からホームに気軽に立ち寄れるように配慮し、地域の方からの認知症に対する相談などに応じている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2ヶ月に1回開催し、ホームの近況報告、取り組みなどを報告すると共に、助言アドバイスを頂いて施設運営に反映している。また家族会、防災訓練などにも参加して頂き行事等を活用しながら開催している。	
			(外部評価) 運営推進会議には、民生委員をはじめ町内会長や自主防災会長、高齢者見守り員など地域から多くのメンバーが参加しており、事業所の報告だけではなく、積極的に具体的な課題や取り組みについて意見交換を行い、事業所のサービス向上につなげている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 日頃から密に連絡を取り、協力関係を築けるように取り組んでいる。また必要に応じて助言などして頂いている。	
			(外部評価) 市の担当者とは運営推進会議以外にも日常的に相談や連絡をとっており協力関係が構築できている。地域包括支援センターから入居の相談も多く連携を図っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束に関する勉強会を持ち、身体拘束がもたらす様々な危険因子を職員間で把握するように努めている。	
			(外部評価) 身体拘束をしないケアについて、全職員が勉強会などで理解を図っている。夜間以外は玄関を施錠しないで、利用者の状態を把握して見守りながらその人らしい自由な暮らしを支えている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) ミーティング等で虐待防止について十分に検討しつつ防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) ミーティングの際に勉強会を開催し、理解出来るように努めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約・解約の際には利用者や家族に十分な説明、理解を得た上で行なっている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者との日頃の日常生活の関わりの場面の中から要望等を聞き、職員間で周知、実現に向けての取り組みを行なっている。家族とは面会時等を利用して意見、要望を聞きだせるように努めている。	
			(外部評価) 面会時には職員から話しかけるなど、家族が意見や要望を伝えやすいよう配慮している。家族会も年に2～3回行っている。遠方に住む家族には利用者の写真を送り生活の様子がわかるよう工夫し、電話連絡も密にとり、家族からの要望を聞く機会を作っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月のミーティングの際に職員の意見を取りまとめた物を議題に掛け、施設長・管理者等に、助言、アドバイスを頂いている。また日常的に管理者は現場に関わる場面が多く、職員からの意見が言える・聞ける環境を整えている。	
			(外部評価) 毎月のミーティング時に職員が意見や要望を出せる機会を設けている。管理者は職員と一緒に現場にいることが多く、職員の意見や要望が伝えやすい環境が整っている。代表者もミーティングの他に普段から事業所を訪れ、職員の意見を聞く機会を持っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 研修や勉強会への参加、又、各職員のストロングポイントを見極め役割分担を設ける事で、職員の意欲向上に努めている。役職の起用により、特別手当及び昇給等を設けている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修の案内を掲示し、その職員の力量に見合った研修に参加することで、職員又は職場のレベルアップに努めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 勉強会や研修への参加をする事で、同業者との交流を図っている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 相談から利用に至るまで本人又は家族から情報を集めている。本人との関わりの時間を多く持つように努め、生活に対する要望や、困っている事を傾聴し、ケアプランに結びつける事で、安心して生活出来る環境作りに努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入所時に希望・要望等を伺い、安心して相談して頂ける様な雰囲気を作り、速やかに対応できるように努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人、家族との会話や関わりの中でその時々が必要としている支援を把握し、ミーティング等を通して職員間で周知し、実行を遅らせないように対応している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 出来る限り密に関わる時間を取る事で、利用者の方の持っている力を把握し、それを最大限発揮出来る環境作りに努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時は一緒にゆっくり過ごして頂ける環境を整えている。又、電話連絡時等は近況をお伝えし、家族からの助言・アドバイスを頂く事で共に支えていく関係作りに努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 馴染みの美容室の利用、日帰り旅行、墓参り等馴染みの関係を断ち切らないように努めている。又、入所の年数が長くなればホームで利用者同士の馴染みの関係も出来、新たな関係の継続にも努めている。 (外部評価) 一人ひとりの生活習慣を尊重し、馴染みの場所や人と継続して交流ができるように支援している。長年勤務している職員も多く、利用者にとって新しい馴染みの関係も構築できている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) リビングをホームポジションとし、食事以外でも他者との交流が図れるように努めている。又、散歩やレクリエーションを通して他者との関係の構築を図っている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退所後も利用者の家族と関わる場があり、本人の様子をお聞きしたり、必要によっては相談等に応じる事で関係を断ち切らないように努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日常生活の中でコミュニケーションを密に取る事で信頼関係の構築に努め、何気ない会話の中から本人の要望や意見などを聴き出し、職員間で周知し、実施に向けての取り組みを行なっている。意思相通の困難な利用者に関しては表情や、態度から思いを汲み取れるよう努めている。 (外部評価) 利用者がどのような暮らし方を望み、何をすることで喜びを感じられるか普段の関わりの中で把握したり家族や知人から情報を得るなどして、一人ひとりの希望に沿えるように支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前には管理者が本人、家族等からこれまでの暮らしや生活歴などを聞き、入居してからは関わりの中から本人の想いを聞きだせるように努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 介護記録等を活用し、一日の過ごし方を把握している。生活の中でも、本人の得意とする事に焦点を当て、実施して頂く事により自身回復等にも努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 各入居者に担当職員をつけ、計画作成担当者と共にプランを作成し、ミーティング時など全職員で検討している。又、状態の変化などがあった場合などはその都度見直しをしている。	
			(外部評価) 利用者ごとに担当者を決めており、全職員が介護計画について検討し意見を出して作成している。モニタリングは毎月行って、利用者や家族の要望や意見を聞いて現状に合った介護計画であるか確認している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別に生活記録を記載し、気づきやケアのヒント等は申し送りノート活用している。又、ケアプランの期間に応じて、評価・見直しを行なっている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 体調不良時の通院介助等、必要に応じて家族の代わりに支援している。その他の個別の希望としては家族と相談しながら対応している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 運営推進会議に民生委員や町内会長、包括支援センター、介護保険課、市社協等の出席が得られ、理解を深めて頂いている。又、集会場を避難訓練に使用したり、神社やお寺等は散歩に利用している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 利用者や家族が希望する医療機関で受診が出来るよう に支援している。又2週間に1回の往診、急変時には 即座に連絡が取れ、対応が出来る体制が整っている。	
			(外部評価) 医師の往診があり看護職員も配置され、日頃から細や かに健康管理を行っている。皮膚科や歯科など専門医 への受診では、家族が対応できない時は職員が付き添 い、受診内容は家族に詳しく報告し、職員は記録して 情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 日常的に利用者の健康状態をホーム内の看護師に報告 し必要に応じた支援をしている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 長期入院により、重度化しないように、病院と密に連 絡を取り合い、利用者の状況を把握するようにしてい る。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につ いて、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) ターミナルケアのマニュアル、同意書を作成し、入居 時などに本人、又は家族等に説明をし、同意を得てい る。急変時等はすぐに対応できるように、協力医療機 関と連携が図れている。	
			(外部評価) 今までに看取りはないが、入居時に利用者と家族に終 末期についての意向を聞き、事業所ができることの説 明と確認を行っている。運営推進会議で医師が終末期 について講義を行ったり、職員にも終末期や看取りに ついての話をして知識を深めて、取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変時のマニュアルを作成し、職員全員周知できるように努めている。又、AEDを設置し、定期的に点検、使用方法の確認を行なっている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年に2回の消防訓練を実施し、消防署、町自主防災会の協力体制は築けている。又、夜勤者を1名増やすことにより、災害時の体制を強化している。 (外部評価) 避難訓練では、避難場所への利用者の誘導などを実際に行い、安全な方法で確実に避難できるように利用者と職員、地域住民も一緒に取り組んでいる。防災用品も整備されており定期的に確認している。	防災士の資格を持った住民が事業所近くに数名おり、災害時に拡声器を使って近隣住民へ呼びかけるなど迅速に安全に避難できる方法を検討しており、引き続きこの取組みに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 一人ひとりの性格を考慮し、その時々状況に応じた声掛けに配慮している。ミーティングの際にも具体例を挙げ職員の意識付けを徹底している。 (外部評価) 入浴時や排泄介助時など様々な場面において、利用者の尊厳やプライバシーを考えて、さりげない声かけや対応に配慮している。居室の入り口にはのれんをかけて、部屋のドアを開放していても部屋の内部が見えないように工夫している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 本人の思いを引き出せるような関わりに、重きを置いている。憶測で行動するのは慎み、自己決定までの時間を大切にしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 声掛け等にも選択性を持ち強制的にならないように心掛けている。本人の意見を大切に、希望に応じた支援をしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 衣類など本人の希望により買い物に出かけたり、定期的な訪問美容を利用したり、外出を兼ねて美容室に出掛けたりしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者に合わせて、食事形態を刻み食やミキサー食等になっている。又無理のないように食器の片付けや下膳等して頂いている。	
			(外部評価) 利用者の希望を取り入れながら職員が献立を考え、利用者と一緒に調理をし、配膳なども無理のないよう手伝ってもらっている。利用者と職員が同じテーブルにつき、会話をしながら楽しい食事の時間となるように努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 一日に必要な食事量が摂取できるように努めている。又食事だけでは十分に摂取できない方がいる場合は主治医と相談し、栄養補助食等の処方を受け柔軟に対応している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 口腔ケアは誤嚥性肺炎の重要な予防策になる為、毎食後口腔ケアは行い、必要な方は介助にて清潔保持を保っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 日中は可能な限りトイレ誘導を行い、スムーズな排泄が出来るように努めている。また夜間などはポータブルトイレを設置するなど利用者の状況に応じた対応を行なっている。	
			(外部評価) 職員は利用者の排泄パターンとその日の状態を把握し、トイレ誘導を行っている。できるだけオムツを使用せず、気持ち良く自立した排泄ができるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 便秘予防の為、食事には繊維の多いものを極力使用し、おやつなども寒天や、乳製品を使用し、排便コントロールを行なっている。又、日常的に体操や散歩などにも出掛け、腸の活性化を図っている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 利用者に応じて、介助方法、介助者の人数を変えたりしている。時間帯はほぼ決まってしまうが要望に応じて柔軟に対応できるように努めている。	
			(外部評価) 入浴の苦手な利用者には声かけを工夫するなど、一人ひとりの状態に合わせて、気持ち良く安心して入浴ができるように支援している。入浴剤を入れて香りを楽しんでもらったり、入浴が楽しみになるように工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日中の活動内容を増やし、夜間の安眠に繋げている。又、日中等も、本人の体力等を考慮し、居室で横になる時間を設けたりしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 内服薬が一目で分かる用に医務ノートを設け、効能等を理解出来るように配慮している。又服薬時には、手渡し、飲み込みの確認を行なっている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 一人ひとりの持っている力を把握し、発揮出来る環境作りに取り組んでいる。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 日常的に散歩を取り入れながら、なるべく戸外に出掛けるように努めている。又、個人の要望に応じて、買い物・外食・映画・美容室など行きたい場所へ行けるように支援している。	
			(外部評価) 買い物や季節ごとの花見、外食、また利用者一人ひとりの希望に合わせた外出支援を行っている。事業所の近くには川沿いに桜を楽しめる場所があり、利用者は季節を感じることが出来る。住宅街に事業所があり、近隣を散歩しながら地域住民とも交流ができて気分転換が図れている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 金銭に関しては事務所で管理しているが、管理の出来る方に関しては、小遣い程度のお金を持参し、買い物等に出かけた際にはご自分で支払って頂いている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 利用者の要望に応じて、電話・手紙のやりとりを行なっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 壁の飾りつけや季節の花を飾る際、環境の変化により生活に混乱を招かないよう、利用者と一緒にいる。気温や臭いにも配慮している。</p> <p>(外部評価) カウンターキッチンがリビングに面しており、利用者は調理の匂いや音を感じることができ、調理の手伝いや食事の配膳などを行いやすい共用空間となっている。昼コーナーもあり、利用者は思い思いの場所でゆっくりくつろぐことができる。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 生活環境の中にも、個人に合わせ座りやすい椅子を用意し、利用者同士の相性を考慮したうえで座席を決め、居心地の良い、過ごし易い場所になるように考慮している。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 馴染みの家具・寝具・衣類・仏壇等自由に持ち込んで頂き、本人好みの部屋になるように工夫している。</p> <p>(外部評価) 絨毯を敷いて家庭的な温かい雰囲気に配慮したり、各部屋それぞれ居心地良く過ごしやすいように工夫されている。利用者は、馴染みの家具や思い出のものを自由に持ち込んでいる。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) トイレ・浴槽・廊下等手摺りを設置し、手摺りを使用して立つ事のできる方の助けになっている。又車椅子、歩行器等を準備し、体調に合わせて使用することが出来、安全且つ自立できるように努めている。</p>	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870102153
法人名	有限会社 イヨメディカル
事業所名	グループホームみゆき 2F
所在地	松山市御幸2丁目8-18
自己評価作成日	平成24年9月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 24年 10月 19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>利用者の方が安心して生活出来るように、家族、職員、必要な医療機関と密に連絡を取り合いながらケアに励んでいる。又、利用者の方が充実した一日を送って頂ける様に、日頃から密に関わりを持ち利用者の要望、希望を具現化していけるように努めている。</p> <p>戸外に出て行くことを重点に置き、天気の良い日以外は外出、特に散歩を日課とし、近隣に住む住民の皆様と挨拶会話をしていくことで地域から孤立する事なく生活出来るように努めている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>古い民家が立ち並ぶ住宅地に開設され10年目を迎える事業所である。日課にしている近所への散歩の際に、地域住民と会話をするなど日常的に交流を持っており、積極的に関わっていくことで地域に馴染んだ事業所となっている。運営推進会議の参加メンバーは地域住民も多く、活発な意見交換が行われており、地域との協力体制が築かれている。利用者が楽しくやすらぎを感じながら暮らせるよう、代表者と管理者、職員が力を合わせて取り組んでいる。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 有限会社 イヨメディカル

(ユニット名) グループホーム みゆき2F

記入者(管理者)

氏名 青木 正知子

評価完了日 平成24年 9月 15日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 事業所の理念を「家訓」として掲げ、常に全職員で再確認し、実践に努めている。又、毎年ケアについての目標設定を定め、達成できるように努めている。	
			(外部評価) 事業所の理念は誰にでも分かるよう表現し、思いやりを持って優しい笑顔を大切に利用者一人ひとりと関わりを持つことを心がけている。新しい職員には入社時に説明しており、全職員で実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 運営推進会議を通して地域の防災訓練等に参加、秋祭り、ボランティアの受け入れ等、地域のとの関わりに力を入れ、事業所、又は利用者の方々が地域から孤立する事のないように努めている。	
			(外部評価) 事業所の周りは民家が多く、散歩の際に地域住民とふれあうなど日常的に交流がある。近くのお寺の行事にでかけたり、事業所を神輿の休憩場所として提供するなど地域の活動にも積極的に関わりを持っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 外部からホームに気軽に立ち寄れるように配慮し、地域の方からの認知症に対する相談などに応じている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2ヶ月に1回開催し、ホームの近況報告、取り組みなどを報告すると共に、助言アドバイスを頂いて施設運営に反映している。また家族会、防災訓練などにも参加して頂き行事等を活用しながら開催している。	
			(外部評価) 運営推進会議には、民生委員をはじめ町内会長や自主防災会長、高齢者見守り員など地域から多くのメンバーが参加しており、事業所の報告だけではなく、積極的に具体的な課題や取組みについて意見交換を行い、事業所のサービス向上につなげている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 日頃から密に連絡を取り、協力関係を築けるよう取り組んでいる。また必要に応じて助言などして頂いている。	
			(外部評価) 市の担当者とは運営推進会議以外にも日常的に相談や連絡をとっており協力関係が構築できている。地域包括支援センターから入居の相談も多く連携を図っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束についての勉強会を開き、出来る限り身体拘束をしないように努めているが、危険を伴う場合は、本人家族と相談し、ベット柵、オーバーテーブルでの拘束はあるが定期的に検討会を開き不要と判断後は速やかに中止している。	
			(外部評価) 身体拘束をしないケアについて、全職員が勉強会などで理解を図っている。夜間以外は玄関を施錠しないで、利用者の状態を把握して見守りながらその人らしい自由な暮らしを支えている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) ミーティング等で虐待防止について十分に検討しつつ防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) ミーティングの際等に勉強会を開催し、理解出来るように努めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約・解約の際には利用者や家族に十分な説明、理解を得た上で行なっている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者とは日頃の日常生活の関わりの中から意見・要望を聞き、家族の方が面会に来られた際には近況を報告したり、意見・要望を伺い、運営、ケアに繋げるようにしている。 (外部評価) 面会時には職員から話しかけるなど、家族が意見や要望を伝えやすいよう配慮している。家族会も年に2～3回行っている。遠方に住む家族には利用者の写真を送り生活の様子がわかるよう工夫し、電話連絡も密にとり、家族からの要望を聞く機会を作っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 毎月のミーティング等で職員の意見や提案を言える環境が整っている。又、管理者は現場に入る事が多く、職員の意見・要望が言える・聞ける環境を整えている。</p> <p>(外部評価) 毎月のミーティング時に職員が意見や要望を出せる機会を設けている。管理者は職員と一緒に現場にすることが多く、職員の意見や要望が伝えやすい環境が整っている。代表者もミーティングの他に普段から事業所を訪れ、職員の意見を聞く機会を持っている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 研修や勉強会への参加、又、各職員のストロングポイントを見極め役割分担を設ける事で、職員の意欲向上に努めている。役職の起用により、特別手当及び昇給等を設けている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 研修の案内を掲示し、その職員の力量に見合った研修に参加することで、職員又は職場のレベルアップに努めている。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 勉強会や研修への参加をする事で、同業者との交流を図っている。</p>	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) リロケーションダメージに配慮しつつ、本人・家族からの要望等を聞き、一日でも早くホームでの生活に慣れて頂けるように配慮している。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入所時に希望・要望等を伺い、安心して相談して頂ける様な雰囲気を作り、速やかに対応できるよう努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 出来る限り、本人に関しての情報収集をし、必要としている支援を見極めている。入手した情報と現状に相違がある場合には、早急に対応し、適切な支援が提供できるように努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 関わりの中で本人の出来る事・出来ない事を把握し、それを職員間で周知することにより、本人の持っている力を最大限に発揮出来る環境作りに努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 職員の一方的な思い込みでケアをしないように注意をしつつ、家族の方にもケアに関する情報を得ながら家族と協力し、利用者が満足できる日常生活を送れるように努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 馴染みの美容室の利用、日帰り旅行、墓参り等馴染みの関係を断ち切らないように努めている。又、入所の年数が長くなればホームで利用者同士の馴染みの関係も出来、新たな関係の継続にも努めている。 (外部評価) 一人ひとりの生活習慣を尊重し、馴染みの場所や人と継続して交流ができるように支援している。長年勤務している職員も多く、利用者にとって新しい馴染みの関係も構築できている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士が抱えているトラブルには職員が仲介し、お互いが気まずくならないような環境作りに努め、利用者同士が共に支え合って生活をしていけるような支援を心がけている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退所後も利用者の家族と関わる場があり、本人の様子をお聞きしたり、必要によっては相談等に応じる事で関係を断ち切らないように努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 普段の何気ない会話・動作・表情の中から本人の思いを汲み取り利用者本位で生活出来るように努めている。	
			(外部評価) 利用者がどのような暮らし方を望み、何をすることで喜びを感じられるか普段の関わりの中で把握したり家族や知人から情報を得るなどして、一人ひとりの希望に沿えるように支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前には管理者が本人、家族等からこれまでの暮らしや生活歴などを聞き、入居してからは関わりの中から本人の想いを聞きだせるように努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 介護記録等を活用し、一日の過ごし方を把握している。生活の中でも、本人の得意とする事に焦点を当て、実施して頂く事により自身回復等にも努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 各入居者に担当職員をつけ、計画作成担当者と共にプランを作成し、ミーティング時など全職員で検討している。又、状態の変化などがあった場合などはその都度見直しをしている。	
			(外部評価) 利用者ごとに担当者を決めており、全職員が介護計画について検討し意見を出して作成している。モニタリングは毎月行って、利用者や家族の要望や意見を聞いて現状に合った介護計画であるか確認している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別に生活記録を記載し、気づきやケアのヒント等は申し送りノート活用している。又、ケアプランの期間に応じて、評価・見直しを行なっている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 体調不良時の通院介助等、必要に応じて家族の代わりに支援している。その他の個別の希望としては家族と相談しながら対応している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 運営推進会議に民生委員や町内会長、包括支援センター、介護保険課、市社協等の出席が得られ、理解を深めて頂いている。又、集会場を避難訓練に使用したり、神社やお寺等は散歩に利用している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 協力医療機関だけではなく、入居前からのかかりつけ 医、本人・家族の希望する医療機関での受診が出来る ように支援している。</p> <p>(外部評価) 医師の往診があり看護職員も配置され、日頃から細や かに健康管理を行っている。皮膚科や歯科など専門医 への受診では、家族が対応できない時は職員が付き添 い、受診内容は家族に詳しく報告し、職員は記録して 情報を共有している。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 利用者の身体的な異変を見落とす事のない様に関わり にに重きを置き、異変や気づきなどがあれば看護師に 相談し、指示を仰ぎ対応している。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 入院中も職員等がお見舞いなどに行く機会を増やし、 利用者のその時の状況を把握するように努め、早期退 院に向けて主治医・看護師等と相談しつつホームでの 受け入れ体制を強化している。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につ いて、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) ターミナルケアに関してのマニュアルを作成し、家族 に説明し、意見・要望を聞き、同時に同意書も得てい る。また段階ごとに本人・家族等の意向を確認しなが ら、主治医等に相談、対応している。</p> <p>(外部評価) 今までに看取りはないが、入居時に利用者と家族に終 末期についての意向を聞き、事業所ができることの説 明と確認を行っている。運営推進会議で医師が終末期 について講義を行ったり、職員にも終末期や看取りに ついての話をして知識を深めて、取り組んでいる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変時のマニュアルを作成し、職員全員周知できるように努めている。又、AEDを設置し、定期的に点検、使用方法の確認を行なっている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年に2回の消防訓練を実施し、消防署、町自主防災会の協力体制は築けている。又、夜勤者を1名増やすことにより、災害時の体制を強化している。 (外部評価) 避難訓練では、避難場所への利用者の誘導などを実際に行い、安全な方法で確実に避難できるように利用者と職員、地域住民も一緒に取り組んでいる。防災用品も整備されており定期的に確認している。	防災士の資格を持った住民が事業所近くに数名おり、災害時に拡声器を使って近隣住民へ呼びかけるなど迅速に安全に避難できる方法を検討しており、引き続きこの取組みに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 普段の声掛け等にも介護の専門職として節度を持った対応が出来るように心がけている。 (外部評価) 入浴時や排泄介助時など様々な場面において、利用者の尊厳やプライバシーを考えて、さりげない声かけや対応に配慮している。居室の入り口にはのれんをかけて、部屋のドアを開放していても部屋の内部が見えないように工夫している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 本人の意見・希望が表出しやすい関わり、環境作りに努めている。またケアプラン等も本人の意欲を引き出せるようなプランを立て実践に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 職員側の都合を優先するのではなく、出来る限り利用者のペースを崩すことなく生活して頂ける様に努めている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 利用者の個性や好みに合わせ身だしなみやおしゃれの支援をしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 必要に応じて、キザミ食・ミキサー食等を取り入れ、利用者の状態に合わせた食事を提供をしている。又、共に食事作りをして頂いたり、野菜の収穫をしたりしながら食事への意欲へと繋げている。	
			(外部評価) 利用者の希望を取り入れながら職員が献立を考え、利用者と一緒に調理をし、配膳なども無理のないよう手伝ってもらっている。利用者と職員が同じテーブルにつき、会話をしながら楽しい食事の時間となるように努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 体重測定や主治医などの意見を参考にしつつ、各利用者に合った食事を提供している。また一日の食事摂取量が不足している場合などには主治医と相談し、栄養補助食にて不足分を補っている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 口腔ケアの重要性を全職員が理解し、毎食後、各利用者に声掛けし、必要があれば、見守り・介助を行なっている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 日中は可能な限りトイレ誘導を行い、スムーズな排泄が出来るように努めている。また夜間などはポータブルトイレを設置するなど利用者の状況に応じた対応を行なっている。	
			(外部評価) 職員は利用者の排泄パターンとその日の状態を把握し、トイレ誘導を行っている。できるだけオムツを使用せず、気持ち良く自立した排泄ができるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 食事には極力繊維の多い物を使用したり、日中の体操や散歩、水分を多く摂って頂く等の対応を行なっている。又、排泄チェック表を用いて個々の排便状態を把握できるように努めている。	
			(外部評価)	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 利用者に応じて、介助方法、介助者の人数を変えたりしている。時間帯はほぼ決まってしまうが要望に応じて柔軟に対応できるように努めている。	
			(外部評価) 入浴の苦手な利用者には声かけを工夫するなど、一人ひとりの状態に合わせて、気持ち良く安心して入浴ができるように支援している。入浴剤を入れて香りを楽しんでもらったり、入浴が楽しみになるように工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日中は極力離床している時間を多くする事で夜間の安眠に繋げている。又、各利用者の状態に応じて日中休息の時間をとったり臨機応変に対応している。	
			(外部評価)	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 内服薬が一目で分かる用に医務ノートを設け、効能等を理解出来るように配慮している。又服薬時には、手渡し、飲み込みの確認を行なっている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 各利用者の生活歴や現在持っている力に合わせて、家事手伝いや趣味の時間を取り入れたりしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 日常的に散歩を用いて極力戸外に出て地域の方と触れ合う機会を設けたり、気分転換を図ったりしている。又、希望に応じて、買い物に出かけたり、映画を見に行ったりと本人希望・要望を具現化出来るように努めている。	
			(外部評価) 買い物や季節ごとの花見、外食、また利用者一人ひとりの希望に合わせた外出支援を行っている。事業所の近くには川沿いに桜を楽しめる場所があり、利用者は季節を感じることが出来る。住宅街に事業所があり、近隣を散歩しながら地域住民とも交流ができて気分転換が図れている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) ほぼ金銭は事務所にて管理はしているが、希望に応じて金銭を使用できるようにしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 家族からの電話などに関しては本人の居室にてゆっくりと話す時間などを設け、大切な存在との関係を断ち切らないように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) リビングでは利用者同士、職員との会話ができるような空間を設け、台所は対面式で、台所からの野菜を切る音、料理の匂いなど五感を刺激することで生活感を取り入れ居心地よく生活出来るように工夫している。</p> <p>(外部評価) カウンターキッチンがリビングに面しており、利用者は調理の匂いや音を感じることができ、調理の手伝いや食事の配膳などを行いやすい共用空間となっている。昼コーナーもあり、利用者は思い思いの場所でゆっくりくつろぐことができる。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 利用者同士の相性を考慮して座席を決めており、本人にとって居心地の良い空間になるように配慮している。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 使い慣れた物を使用して頂くことにより、居心地よく生活出来るようにしている。又、季節ごとにディスプレイを変えて温かく、生活感があるような空間作りを心がけている。</p> <p>(外部評価) 絨毯を敷いて家庭的な温かい雰囲気に配慮したり、各部屋それぞれ居心地良く過ごしやすいように工夫されている。利用者は、馴染みの家具や思い出のものを自由に持ち込んでいる。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) トイレ・浴槽・廊下等手摺りを設置し、手摺りを使用して立つ事のできる方の助けになっている。又車椅子、歩行器等を準備し、体調に合わせて使用することが出来、安全且つ自立できるように努めている。</p>	